

ステロイド使用後に全身の水疱と喘息を経験した小児アトピーの経過 (6歳女児)

症例 ID：001-06-AH2 | 記録日：不明

1. 診断・治療前経過

母親自身にアトピーとステロイド軟膏・抗アレルギー剤使用によるつらい経験があり、娘には同じ経験をさせたくないという思いから、ステロイドを使わない治療を探していました。

松本医院に通い始める前、症状の悪化部位に年2回、季節の変わり目に2週間ほどステロイド軟膏を塗っていました。常用しなければ副作用の心配はないだろうと考えていました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	症状が悪化した部位に、季節の変わり目に年2回ほどステロイド軟膏を使用していました。乳児期にも同じような軟膏を塗っていた部位がありました。
製品名	不明。
強度	不明。
使用期間	年2回、2週間ほど。乳児期の使用歴も疑われます。
中止時期	松本医院での治療開始後にステロイドを使用しない方針となりました。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後の使用は不明です。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
来院前	来院前	季節の変わり目に症状の悪化部位へステロイド軟膏を塗っていました。
通院開始後1週間目	初期反応	朝、赤い湿疹が水疱となり、背中、膝、肘、腰回り、指、太ももなど体のあちこちに出始めました。水疱が多かった部位は、以前に軟膏を塗っていた部位が中心でした。
リバウンド期	ピーク期	皮膚炎が悪化し、ヘルペスの心配がありました。近医で診察を受け、ヘルペスの心配はなくなりましたが、胸がヒューヒューしていると指摘されました。翌日、松本医院で喘息と診断されました。
皮膚炎ピーク後	約2週間	皮膚炎は2週間ほど、かゆみと痛みがありました。14日目の朝、布団や歩いた跡に剥がれた皮が落ち、毎日いくつかの部位で皮がポロポロ剥がれました。
その1週間後	回復傾向	白い肌がところどころ見えるようになりました。
3か月時点	経過時点	まだ湿疹が出たり引いたりする日々でしたが、元気に幼稚園へ通っていました。煎じ薬はえずきながらも毎日飲んでいました。

4. ピーク時期

ピークは、治療開始1週間目から2週間ほどの、赤い湿疹が水疱となって全身の複数部位に出た時期と、皮膚炎に加えて喘息症状が確認された時期です。かゆみと痛みがあり、皮がポロポロ剥がれる状態でした。

5. 困りごと

- ・6歳児であり、かゆみ・痛み、水疱、喘息症状が同時期に出たことで家族の不安が大きくなりました。
- ・遠方のため、近くの医療機関で確認しながら進める場面がありました。
- ・煎じ薬を飲むことに抵抗があり、毎日えずきながら続けていました。

6. 経過のまとめ

治療開始1週間目から水疱や皮膚炎、喘息症状が出たものの、皮膚炎は2週間ほどかゆみと痛みが続いた後、皮が剥がれ、その1週間後には白い肌がところどころ見えるようになりました。

3か月時点ではまだ湿疹が出たり引いたりしていましたが、元気に幼稚園へ通う生活を送れるようになりました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。